

# 油脂関連各社・平成27年3月期中間決算

平成27年3月期中間決算（平成26年4月1日～平成26年9月30日）  
 単位は百万円。1株益と配当金は円。△印はマイナス。配当金は期末。

## 食 油



### 味の素（連結決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	467,622	28,588	31,909	20,747	35.04
26 中間	468,907	29,744	33,110	22,342	36.06
増減率	△ 0.3%	△ 3.9%	△ 3.6%	△ 7.1%	

【分野別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

	売上高	増減率	構成比
国内食品	147,200	( 2.1%)	31.5%
海外食品	153,100	( 6.3%)	32.7%
バイオティン	108,200	( △ 3.0%)	23.1%
医薬	18,700	( △ 32.6%)	4.0%
その他	40,100	( △ 2.2%)	8.7%

【寸評】海外食品のコンシューマーフーズや国内食品が伸長したものの、7月1日から持ち分法適用会社である、エスワイファーマに輸液・透析事業を移管したことなどで、売上高は減収。営業利益は、飼料用アミノ酸事業の市況低迷で減益。国内食品は、消費増税の駆け込み需要の反動が収束し、7月から増収に転じた。

### かどや製油（単独決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	11,641	584	671	405	43.17
26 中間	11,243	1,123	1,289	768	81.79
増減率	3.5%	△ 48.0%	△ 47.9%	△ 47.2%	

【部門別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

	売上高	増減率	構成比
ごま油	9,374	( 3.0%)	80.5%
食品ごま	2,265	( 5.9%)	19.5%
その他	1	( 0.0%)	0.0%

【寸評】ゴマ油の販売数量は、輸出が好調だったものの、

家庭用や業務用の落ち込みがあったが、値上げにより、前年を上回った。利益面では、原料価格高騰（約30%）や円安の影響が響き、コスト削減に努めたものの、減益になった。急激な円安の影響で再値上げを検討中。

### J-オイルミルズ（連結決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	96,680	3,894	4,085	2,699	16.22
26 中間	101,913	2,742	3,018	1,755	10.53
増減率	△ 5.1%	42.0%	35.3%	53.8%	

【部門別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

	売上高	増減率	構成比
製油事業	88,893	( △ 5.5%)	91.9%
その他	7,786	( △ 0.4%)	8.1%

【寸評】主原料の原料コストが高値圏で推移する中、採算を重視した販売、提案営業の強化、機能性油の拡販、コストダウン、原料・油・ミールの3品の合理的で戦略的なトータルオペレーションの実施などにより、増益を確保した。下期はミールの価格低下、円安などの影響もあり、15年1月から価格改定を実施する。

### 昭和産業（連結決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	123,395	4,893	5,350	3,508	21.95
26 中間	121,978	4,937	5,450	3,867	23.70
増減率	1.2%	△ 0.9%	△ 1.8%	△ 9.3%	

【部門別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

	売上高	増減率	構成比
製粉	31,176	( 5.3%)	25.3%
油脂	29,374	( △ 1.8%)	23.8%
ぶどう糖	18,791	( △ 2.6%)	15.2%
家庭用食品	10,456	( △ 6.3%)	8.5%
飼料	30,905	( 5.2%)	25.0%
倉庫	1,558	( 2.2%)	1.3%
不動産	988	( △ 1.3%)	0.8%
その他	143	( 22.0%)	0.1%

【寸評】製粉事業や飼料事業の売上増加により、増収となるものの、販売管理費および一般管理費の増加などにより、減益となった。油脂事業は、業務用食用油や業務用食材の販売数量は増加したものの、販売価格低下で売上が減少。同事業の利益は、採算改善で増益となった。

#### 摂津製油（単独決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	4,581	114	121	71	5.90
26 中間	4,810	231	239	146	12.04
増減率	△ 4.8%	△ 50.6%	△ 49.2%	△ 51.0%	

【部門別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

油脂	2,131(△ 11.2%)	構成比	46.5%
化成品	2,302( 3.9%)		50.3%
その他	147(△ 23.1%)		3.2%

【寸評】売上高は、化成品事業が若干増加したものの、油脂事業・その他が減少し、全体では前年を下回った。利益面でも油脂事業・その他の売上減少により、前年割れした。油脂事業は、コーン油の精製受託や業務用斗缶の販売が苦戦した。化成品事業の OEM は順調に推移。

#### 日清オイリオグループ（連結決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	158,216	3,085	3,160	1,896	11.41
26 中間	162,421	2,015	2,107	830	5.00
増減率	△ 2.6%	53.1%	50.0%	128.4%	

【部門別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

油脂・油糧事業	102,170(△ 8.2%)	構成比	64.6%
加工油脂事業	43,386( 11.2%)		27.4%
ファインケミカル事業	7,386( 9.2%)		4.7%
ヘルシーフーズ事業	3,551(△ 4.1%)		2.2%
その他事業	1,722(△ 15.6%)		1.1%

【寸評】油脂・油糧事業は、国内油脂製品が消費増税の影響があったが、販売数量は前年同期を上回る。販売価格は市況低迷で前年同期より下落。加工油脂事業は、国内加工油脂がショートニングやチョコレート用油脂などを中心に販売が堅調。ISF 社は欧州向け高付加価値商品に販売構成をシフトし利益面で大幅に前年同期を上回る。

#### 日本食品化工（連結決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	30,090	1,105	1,269	868	35.29
26 中間	32,821	1,648	1,778	1,222	49.70
増減率	△ 8.3%	△ 33.0%	△ 28.6%	△ 29.0%	

【部門別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

澱粉部門	6,920(△ 2.4%)	構成比	23.0%
------	---------------	-----	-------

糖化部門	18,670(△ 11.6%)	62.1%
ファインケミカル部門	890(△ 10.0%)	3.0%
副産物部門	3,590(△ 0.1%)	11.9%

【寸評】販売面については、消費税増税前の駆け込み需要による反動減や天候不順の影響により、清涼飲料及びビール系飲料向けが落ち込み、糖化製品全体の販売数量も減少。一方、澱粉製品については、製紙向け工業用澱粉製品の出荷が好調などで販売数量は増加。収益面については、販売数量減少や単価下落などから悪化した。

#### 日本水産（連結決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	302,268	10,250	11,514	5,899	21.35
26 中間	291,611	5,304	5,775	3,184	11.53
増減率	3.7%	93.2%	99.4%	85.3%	

【部門別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

水産事業	130,264( 13.9%)	構成比	43.1%
食品事業	144,441( 0.7%)		47.8%
ファイン事業	12,854(△ 9.5%)		4.3%
物流事業	7,163( 2.3%)		2.4%
その他事業	7,544(△ 40.0%)		2.4%

【寸評】主力の水産事業、食品事業ともに増収・増益を確保した。特に海外の不採算事業の縮小により、海外での利益を伸ばしている。ファインケミカル事業は、薬価改定および政府主導による後発品使用促進策の強化等の影響により売上・利益が減少した。

#### ポーソー油脂（連結決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	9,641	267	248	148	9.40
26 中間	9,953	△ 148	△ 162	△ 84	△ 5.35
増減率	△ 3.1%	-	-	-	

【寸評】油脂製品の販売数量は、顧客ニーズにマッチしたきめ細かな営業活動の展開し、前年同期を上回った。石鹼・化粧品の販売は、消費増税の駆け込み需要の反動で減少した。収益面は、全社的なコスト削減と穀物価格の低下により、大幅に改善した。

#### マルハニチロ（連結決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	416,631	6,531	6,826	5,976	120.6
26 中間	-	-	-	-	-
増減率	-	-	-	-	

【部門別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

漁業・養殖	16,372(△ 2.8%)	構成比	3.9%
商事	218,767(△ 0.3%)		52.5%
海外	67,405( 32.5%)		16.2%

加工	104,286(△8.2%)	25.0%
物流	7,427(△23.6%)	1.8%
その他	2,372(△25.3%)	0.6%

【寸評】4月1日に子会社のマルハニチロが親会社のマルハニチロホールディングスを吸収合併した。前期の同社との比較では、売上高は1.8%増、営業利益は8.8%増、経常利益は14.1%減、純利益は52.1%増となった。加工事業は、冷凍食品の大幅な減収により、減収欠損。

### 食用加工油脂



10 社

### ADEKA (連結決算)

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	100,184	6,832	7,275	5,017	48.58
26 中間	95,797	6,075	6,385	4,216	40.82
増減率	4.6%	12.5%	13.9%	19.0%	

【部門別売上高】( )内は対前年同期増減率

化学品	70,372(5.0%)	構成比	83.0%
食品	26,509(△0.6%)		15.1%
その他	3,302(3.3%)		1.9%

【寸評】機能化学品や情報・電子の販売伸長などにより、増収増益となった。食品事業は、マーガリン類、ホイップクリーム類とも売上は前年同期並みを確保したが、原料油脂や乳製品などの原材料価格上昇の影響を大きく受け、収益は悪化した。ラードはタイト感が強い状況が続いている。

### カネカ (連結決算)

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	273,368	9,482	9,589	5,438	16.14
26 中間	257,171	11,361	11,790	7,068	20.98
増減率	6.3%	△16.5%	△18.7%	△23.1%	

【部門別売上高】( )内は対前年同期増減率

化成品	56,203(5.6%)	構成比	20.6%
機能性樹脂	47,682(13.8%)		17.4%
発泡樹脂	32,215(0.3%)		11.8%
食品	67,887(4.3%)		24.8%
ライフサイエンス	26,447(18.8%)		9.7%
レトロクス	21,405(△6.2%)		7.8%
合成繊維ほか	21,527(8.9%)		7.9%

【寸評】売上高は、機能性樹脂、ライフサイエンスを中心に6部門で増収となった。営業利益は機能性樹脂、ライフサイエンス、合成繊維が大幅増益となるも、食品、電子材料の一時的な落ち込みをカバーできず。食品は、

新製品の拡販に努めたが、国内需要の伸び悩みと低価格志向が継続するなかで原料価格高騰の影響を受けた。

### ケンコーマヨネーズ (連結決算)

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	30,091	1,394	1,270	736	51.84
26 中間	28,951	1,655	1,561	910	64.05
増減率	3.9%	△15.8%	△18.7%	△19.1%	

【部門別売上高】( )内は対前年同期増減率

調味料・加工食品	24,985(3.2%)	構成比	83.0%
惣菜関連等	4,540(9.3%)		15.1%
その他	564(△3.9%)		2.1%

【寸評】分野を細分化したきめ細かな営業や卵加工品を中心にコンビニ向けの採用増加などで、売上高は伸長した。利益面は、鶏卵相場の高値推移や野菜高騰、新工場の立ち上げによる費用増加などで減益となったが、期初計画の想定内。マヨネーズ・ドレッシング類では、焼き込みパン用のマヨネーズが伸長した。

### 日油 (連結決算)

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	81,347	8,036	8,595	5,495	30.32
26 中間	77,552	7,447	8,586	5,588	30.47
増減率	4.9%	7.9%	0.1%	△1.7%	

【部門別売上高】( )内は対前年同期増減率

機能化学品	53,203(7.9%)	構成比	65.4%
ライフサイエンス	12,305(5.8%)		15.1%
化薬事業	15,172(△5.1%)		18.7%
その他	665(7.7%)		0.8%

【寸評】食用加工油脂は、製菓・製パン用機能性油脂の需要が堅調に推移し、売上高は増加した。機能食品関連製品は、新製品の拡販に注力したものの既存品の出荷が減少し、売上高は減少。脂肪酸誘導体は、環境エネルギー関連および情報電子関連の需要堅調で売上は上回った。

### ピエトロ (連結決算)

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	4,749	306	301	153	27.53
26 中間	4,981	384	378	200	35.86
増減率	△4.7%	△20.4%	△20.3%	△23.2%	

【部門別売上高】( )内は対前年同期増減率

食品	3,328(△4.6%)	構成比	70.1%
レストラン	1,347(△4.7%)		28.4%
その他	74(△5.4%)		1.5%

【寸評】売上高は、消費者の節約志向の高まりなどにより、減少した。利益面では、コスト削減に努めたものの、売上減少により、減益になった。食品事業は、カロリー

を抑えたドレッシングやパスタソースが順調に売上げを伸ばしたものの、前年割れとなった。

### 不二製油（連結決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	128,115	6,421	6,403	4,684	54.50
26 中間	118,628	6,431	6,373	3,894	45.30
増減率	8.0%	△ 0.2%	0.5%	20.3%	

【部門別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

油脂	49,559( 10.6%)	構成比	38.7%
製菓・製パン素材	59,105( 8.4%)		46.1%
大豆たん白	19,450( 0.8%)		15.2%

【寸評】油脂部門は、ヤシ油・パーム油・チョコレート用油脂の販売増加により、増収増益。海外はチョコレート用油脂の販売増加などで増収増益。製菓・製パン素材部門は、国内はチョコレート、クリーム・マーガリンの販売増加で増収、原料価格上昇で減益となった。海外は、東南アジア、中国向けの販売伸長で増収増益。

### 明治ホールディングス（連結決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	559,226	18,978	19,681	12,598	171.11
26 中間	562,957	15,896	17,904	9,790	132.92
増減率	△ 0.7%	19.4%	9.9%	28.7%	

【部門別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

食品	503,369( △ 0.2%)	構成比	89.9%
医薬品	56,777( △ 4.8%)		10.1%

【寸評】食品では、乳製品事業および健康栄養事業は前年割れだが、菓子事業は前年を上回り、全体では前年同期並み。チョコレートはカカオポリフェノールへの関心の高まりで、ビター系チョコレートが大きく伸長し、前年を上回った。市販マーガリンは市場低迷で前年割れ。

### 森永乳業（連結決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	315,762	5,154	5,591	3,280	13.28
26 中間	320,900	9,638	10,113	4,801	19.44
増減率	△ 1.6%	△ 46.5%	△ 44.7%	△ 31.7%	

【単体の部門別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

市乳	107,481( △ 1.4%)	構成比	45.9%
乳製品	45,151( 2.1%)		19.3%
アイスクリーム	31,859( △ 2.1%)		13.6%
その他	49,898( 2.3%)		21.2%

【寸評】単体の売上高は、チーズや牛乳類などの販売が前年を上回る一方、ヨーグルト、乳飲料など、アイスクリームなどが前年割れした結果、合計では前年同期並み。連結子会社の売上げが前年割れし、連結では減収。

連結の利益面では、原材料高騰や広告費増加などで減益。

### 雪印メグミルク（連結決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	276,831	5,120	5,589	2,297	33.87
26 中間	275,671	6,813	6,973	3,961	58.39
増減率	0.4%	△ 24.9%	△ 19.9%	△ 42.0%	

【部門別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

乳製品	101,092( 5.2%)	構成比	36.5%
飲料デザート	133,767( △ 2.8%)		48.3%
飼料・種苗	24,855( △ 2.6%)		9.0%
その他	17,115( 4.0%)		6.2%

【寸評】飲料・デザート類事業は天候不順の影響で売上げが落ち込んだが、乳製品はチーズなどが好調に推移し、売上げが前年を上回り、全体では前年同期並み。利益面では、昨年度下期以降に発生した輸入原材料の高騰などコストアップが大きく、前年を下回った。

### 理研ビタミン（連結決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	41,123	2,008	2,071	1,569	70.96
26 中間	41,084	2,375	2,528	1,633	73.88
増減率	0.1%	△ 15.5%	△ 18.1%	△ 4.0%	

【部門別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

国内食品	28,166( △ 1.3%)	構成比	68.5%
国内化成品他	3,049( 3.5%)		7.4%
海外事業	9,908( 3.3%)		24.1%

【寸評】家庭用食品では、市販ドレッシングが今春に市場導入したオイル入り「ごちそうマジック」シリーズの実績計上があったものの、夏場の天候不順に伴う野菜価格の高騰の影響もあり、売上げは前年同期を下回る結果となった。

### トイレタリー



### 資生堂（連結決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	365,678	10,932	11,512	24,629	61.78
26 中間	360,504	20,391	21,021	5,377	13.51
増減率	1.4%	△ 46.4%	△ 45.2%	358.0%	

【部門別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

国内化粧品	159,976( △ 5.3%)	構成比	43.8%
グローバル	200,883( 7.5%)		54.9%
その他	4,818( 3.3%)		1.3%

【寸評】国内売上高は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動に加え、天候不順により、前年割れとなった。海外売上高は、円安の影響で前年を上回った。営業利益は、国内人件費増加、海外マーケティング投資強化や米国物流センターのトラブルなどで減益となった。

### 油脂化製品



### 三洋化成工業（連結決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	82,317	3,400	3,834	2,277	20.65
26 中間	80,236	4,105	5,054	2,932	26.59
増減率	2.6%	△17.2%	△24.1%	△22.3%	

【部門別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

生活・健康産業	32,515 (△2.4%)	構成比	39.5%
石油・輸送機器産業	19,686 (8.7%)		23.9%
プラスチック・繊維産業	10,757 (11.6%)		13.1%
情報・電気電子産業	9,936 (△4.2%)		12.1%
環境・住宅関連他	9,421 (7.1%)		11.4%

【寸評】生活産業関連分野は、液体洗剤用界面活性剤の売上げが横ばいに推移したことや、ヘアケア製品用界面活性剤の価格競争の激化などにより、売上げが低調に推移した。健康産業関連分野は、高性能高吸水性樹脂の拡販が進んだが、一部価格競争の激化により、売上げは横ばいとなった。

### 新日本理化学（連結決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	15,159	△138	3	△77	△2.08
26 中間	14,858	90	251	179	4.80
増減率	2.0%	-	△98.8%	-	

【部門別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

石化製品	13,723 (1.6%)	構成比	90.5%
その他	1,436 (6.5%)		9.5%

【寸評】アルコール製品では、繊維油剤・洗剤原料向けの高級アルコールおよびトイレットリー業界向け界面活性剤の販売が好調を維持し、売上高は前年を上回った。油脂製品では、合成樹脂向け脂肪酸の需要が低迷したほか、グリセリンも海外品の攻勢で売上高は減少した。

### 第一工業製薬（連結決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	28,044	1,386	1,290	862	20.18
26 中間	26,493	738	683	391	9.18

増減率 5.9% 87.8% 88.7% 120.2%

【部門別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

界面活性剤	10,812 (9.8%)	構成比	38.6%
アメニティ材料	3,492 (△2.8%)		12.5%
ウレタン材料	4,707 (3.2%)		16.8%
機能材料	5,711 (13.7%)		20.4%
電子デバイス材料	3,320 (△4.1%)		11.7%

【寸評】界面活性剤の売上高は全体的に伸長した。国内では、機械・金属用途、IT・電子用途が伸長したほか、石鹼・洗剤用途で顕著に増加。海外では、繊維用途がやや低調だったが、塗料・色材用途等で堅調に推移。シヨ糖脂肪酸エステルは食品用途、化粧品用途がやや低調。

### ダイセル（連結決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	218,689	25,384	26,468	16,959	48.27
26 中間	196,961	17,589	19,218	12,143	34.53
増減率	11.0%	44.3%	37.7%	39.7%	

【部門別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

セルロース事業	48,039 (10.3%)	構成比	22.0%
有機合成事業	44,998 (16.5%)		20.6%
合成樹脂事業	83,672 (12.9%)		38.3%
火工品事業	39,242 (3.8%)		17.9%
その他の事業	2,735 (△3.3%)		1.2%

【寸評】その他部門を除く、全部門で売上高が伸長した。主力の合成樹脂事業は、自動車分野や電子デバイス分野などへの販売数量増加や為替の影響で、売上高は増加した。火工品事業は、中国、東南アジア向け販売が好調。

### 東邦化学工業（連結決算）

	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益
27 中間	20,139	102	△184	△308	△14.48
26 中間	18,101	82	331	177	8.31
増減率	11.3%	23.8%	-	-	

【部門別売上高】（ ）内は対前年同期増減率

界面活性剤	10,746 (8.4%)	構成比	53.4%
樹脂	1,756 (1.3%)		8.7%
化成品	3,124 (29.6%)		15.5%
スペシャリティケミカル	4,461 (11.6%)		22.2%
その他	50 (6.4%)		0.2%

【寸評】売上面では製品需要が全般的に底堅く推移し、全部門で増収となったものの、収益面では、東邦化学（上海）有限公司の事業立ち上げの経費負担増加などで低調な実績となった。界面活性剤は、ヘアケア用基剤や一般洗浄剤が伸長し、トイレットリー用は増収となった。